



古松日記殘月鈔

一



松屋高田大入一二之卷
櫻室北條時鄰大入三之卷
注釋

十六夜日記殘存鈔三冊

京都書肆

出雲寺 梓行



傳由述而不佞信而好古
我聞其語未見其人如高
田文儒者豈其人歟文儒
死春國風博涉羣藉旁覽
豪俊尋討詰訓研精覃思

有季於茲遂訂正古文兼
加注釋者前後數十種皆
取證先哲不疑臆斷識者
推為允當其有益國學豈
淺少乎頃日注十六夜日

記既成將雕諸梓會有其
友友來入京托呂示余二
雅與文儒相識且嘉信好
之薦為題數語附呂返之
云

ほふらる細い流を末路へ海へ

如也

水々々々々々々々々

高橋正徳

残月抄のきま

さききり秋の長るまきり人いふは
何佛尼の膝日記
お終はるは
物れくは
さききり
お終はるは

中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...

中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...
 中にて申す事一の故に...

ていざかひかひとあはれいふまゝにうへへ麻呂を
津波北條時敏にまもらひしめりて
いそぎふれいそぎふれ人に藤原資光の
古記書にゆめゆめ信濃の貞の律令のま
よゆり康茂法海いふまゝのまよまよ
いそぎふれいそぎふれ藤原の秋の山
久保長秋がまよまよのまよのまよ

永澤の香野川流のまよのまよ
こまゆめ時敏のまよのまよのまよの
いそぎふれいそぎふれ藤原のまよのまよ
いそぎふれいそぎふれ藤原のまよのまよ
いそぎふれいそぎふれ藤原のまよのまよ
いそぎふれいそぎふれ藤原のまよのまよ
いそぎふれいそぎふれ藤原のまよのまよ
いそぎふれいそぎふれ藤原のまよのまよ

と有りて。五れをば、河や一見も。きづれり終て、おびつらよ
やれ一方をば。おのめたハ志賀浦浪はら。山三井されと
記に弘安元年五月十二日巳時。日吉神輿三基入洛。是依園城寺金堂
供養也。十六日。日吉神輿各級坐。と有り。時れりきまべけれバ、尼公下
られ。一年ハ建治三年をさるり。それより下れ條に。
あるれ君こ。ハ十六どり。と有り。によりて考るに。あるハ嘉曆
三年十一月八日逝去終焉歌。ムトセアテリヨトセノ冬ノナガキヨニウキ
ヨノ夢ヲミハテヌルカナ。と常樂記にみえて。それ十六歳ハ弘安三
年子有りたり。此日記の長歌に。よとせれと。によりまけり。と有り
これハ建治三年れくれより四年に、はたり。

阿佛尼公。化者部類。慶女部に。安嘉門院四條。前但馬守平廣繁女。元
右衛門佐。法名阿佛。と

こハ異本に。廣繁と。則繁子作たり。續古今羈旅に。度繁と有り。廣
ハ度ハ誤と。扶桑拾葉集作者系圖に。從五位下佐渡守度
繁女。号四條。又稱右衛門佐。安嘉門院侍女。大納言藤為家室。中
納言為相母。後剃髮。法名阿佛。號北林禪尼云々。徹書記物語に。為相ハ
安嘉門院四條腹れ子たり。安嘉門院へまのり。安嘉門院四
條と。より。為され此後たり。安嘉門院四條出家たり。阿佛房
と。り。安嘉門院ハ。後堀川院女。浄土寺太政入道公房女也。云々。と有り。安嘉門院ハ。
後堀川院れ女亦ハ。紹運録に。後高倉院れ皇女邦子。順徳院
れ皇后。後堀川院れ侍姫君。准母に。女院小傳にみえ
弘安六年九月四日。七十五。かくれ。女院小傳にみえ

二れ卷
 一にちりぬるきこたうたうとまたり。同廿二の八鎌倉へ
 いざいもつちりき鎌倉よとまたり。三れ卷丁十六年へいけ
 ちへにけりともたう。同廿丁えんけいぬもきえんけいへも
 とまたり。同廿九丁右いざいれぜんどうきぜんどうよとまたり。

北條時鄰識

源清摹

北林禪居士像
 一軀。雖未考製
 造之時代。然其
 奇古。盖四百年
 以徃之物也。丈
 曲尺五寸八分。
 背後鐫安嘉門
 院四条阿佛之
 八字焉。此像



輪池屋代翁獲而所贈於我
 高田先生也。今縮摹以載于茲。
 平時鄰識

英月少司

そとにささるる... 伊勢
物語中に後のゆれま... 伊人の香
くらへてあそび... 伊人の香
業平のまにま... 伊人の香
三みふら... 伊人の香
れど... 伊人の香

史記東方朔... 伊人の香
つら... 伊人の香
くや... 伊人の香
の... 伊人の香
い... 伊人の香
の... 伊人の香

侍従大夫... 伊人の香
家息... 伊人の香
爵三歳... 伊人の香
六歳... 伊人の香
他... 伊人の香

去... 伊人の香
は... 伊人の香
あ... 伊人の香
強... 伊人の香
な... 伊人の香
ま... 伊人の香
か... 伊人の香
こ... 伊人の香

い... 伊人の香
く... 伊人の香
暇... 伊人の香
これ... 伊人の香

てふぼそくか... 伊人の香

あ... 伊人の香

ま... 伊人の香

か... 伊人の香

里... 伊人の香

ほ... 伊人の香

え... 伊人の香

く... 伊人の香

か... 伊人の香

の... 伊人の香

る... 伊人の香

さ... 伊人の香

う... 伊人の香

松... 伊人の香

ら... 伊人の香

さ... 伊人の香

此... 伊人の香

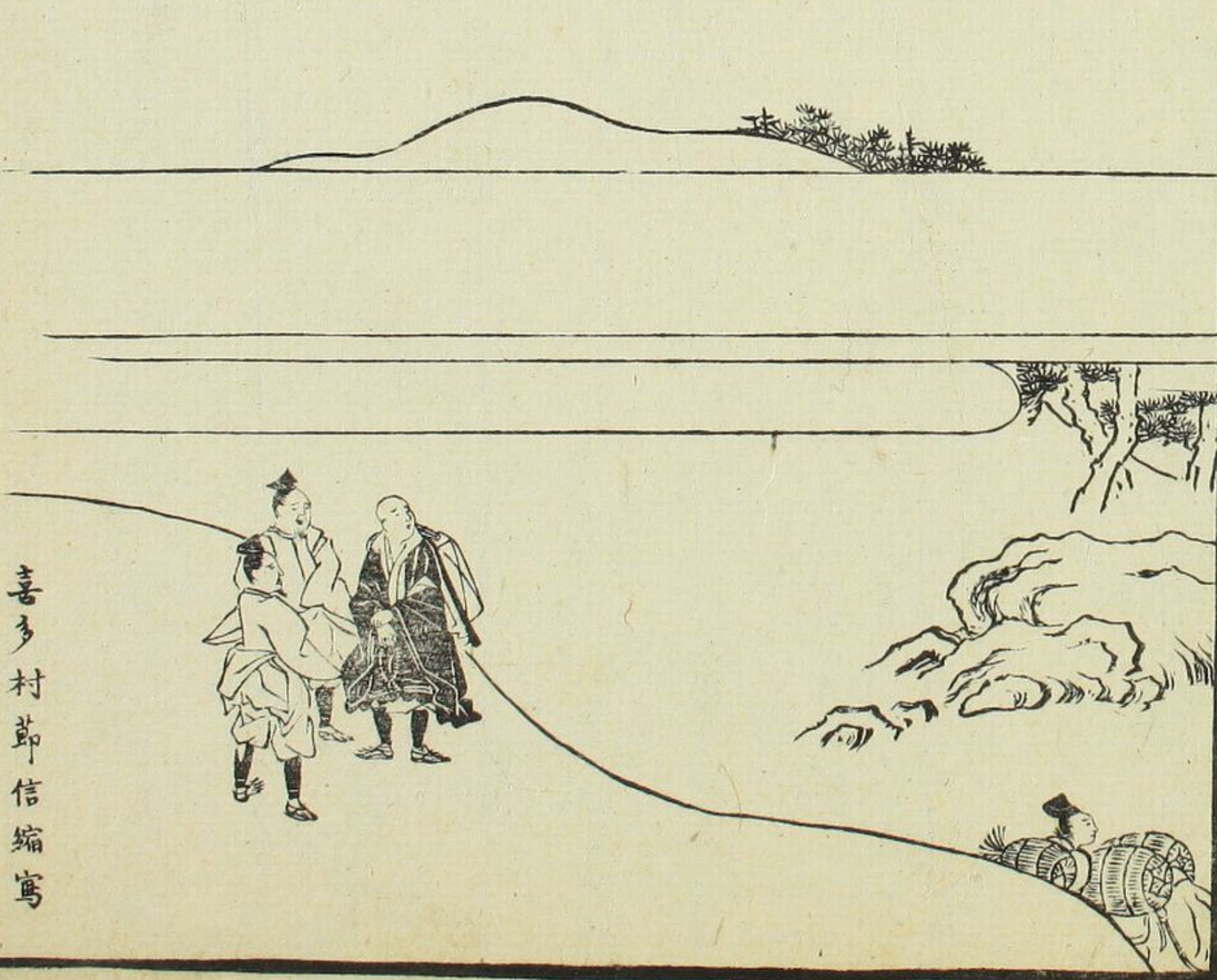
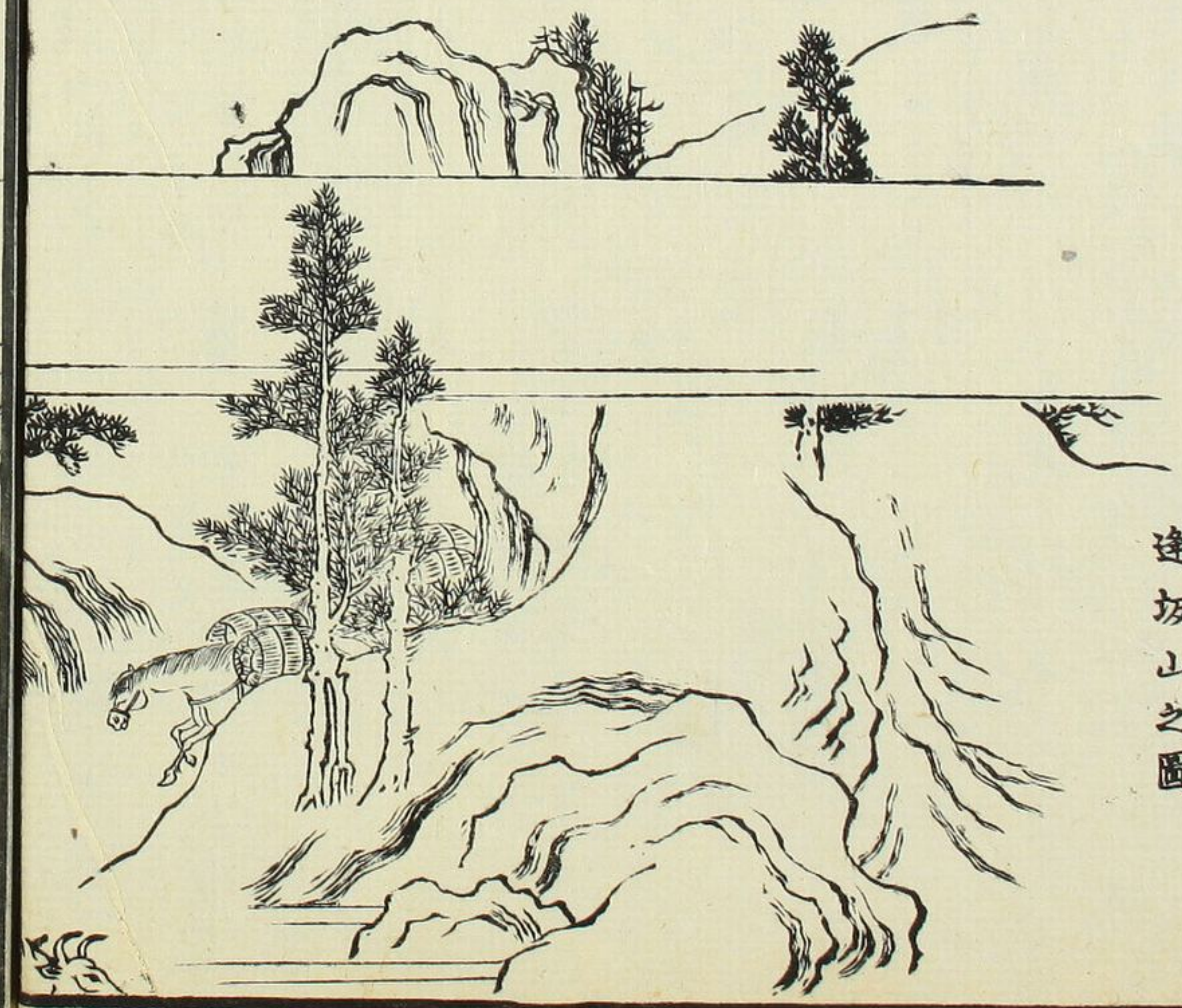
か... 伊人の香

か... 伊人の香

侍從のりよの律師、寫本藤原系音
一山法眼源兼為家卿男、曉月房弟、
母阿佛云、印本藤原系圖十一、
為氏為守、兼遍法印、源兼法眼慶融
法眼為教、為顯、為相、はつてたり、化者
部類法眼部、山源兼、大納言為家、子
云、同法眼、法眼部、もえり、律師以
釋氏要覽上、律鈔解題云、佛言善
解二字名律師一字者、律也、實云云、
具三十法名律師云、頓語要門下宗
鏡錄四十四、かど、もえたり、敏達紀六
年十一月、百海王、獻律師禪師云、天武
紀十二年三月戊子朔己丑、任僧正僧都
律師、因以勅、曰、統領僧尼、如法云、通
證、律師官名、始出于此、文武天皇元年
善住法師任之、与敏達紀所謂、律師異
矣云、續紀、一文武二年三月壬午、善住
法師、為律師云、三代實錄八、法橋
上人位、為律師階、云、按、元亨釋書
廿、堪囊抄十三、釋家官班記、濫觴
鈔上、以呂波字類抄利部、海人、源文上、
二中歷、四職原抄、僧官部、拾芥抄中末、
幕中抄下、撮壤集下、運歩色葉集、
利部、かど、の、か、の、の、の、の、の、の、の、の、
る、せ、ら、は、お、か、く、い、と、始、住、の、年、月、を、あ、
ま、り、を、り、

○西行物語第二卷

達坂山之圖



喜多村節信縮寫

んのおとし、古今笑、ふたつみそ
丹よこゆら振ぶらんのおとしを
りぞけり

阿闍梨の衣、化者部類法眼部に
山慶融大納言為家子云々云々也
阿闍梨及釋氏要覽上云闍梨寄
帛傳云梵語阿遮梨耶唐言執
乾今称闍梨蓋梵音訛略也善提
資糧論云阿遮梨夜階言正行南山
鈔云能糾弟子行故云翻訳名義
集二三藏法数廿二大藏法数廿八など
もみゆ元亨釋書廿五、後一条天皇
長元七年十二月教回為阿闍梨阿闍
梨官自回始云、蓋東抄十三、阿
闍梨八十六代後一条院御宇長元
七年甲戌十二月二教回始任、是此
官ノ始也、又或記云安惠内供始任此
官、是日本阿闍梨始也云々、以呂波字類
抄安部、清和天皇御宇貞觀元年已
卯始置之、或書云文德天皇御時被始

置云々、可尋云々、拾芥抄中未、已
講内供阿闍梨謂之有職云、職原抄僧
官部亦同撮議集下、聖道官阿闍梨
云々、中歷四、闍梨傳燈大法師位云々、
釋家官班記、阿闍梨者被寄置諸寺、
以其闍補任被下官符也、而貴種之、
別而限其身、其可授傳法灌頂職位之
由被下官符、以之稱、一身阿闍梨云々、
海人源茶上、出、
おやのまりり、古今離別、小井の千
古、そののくれナリ、まゝりける、
母のより、たゞちねのおやのまりりと
あひそるるる、まゝり、まゝり、
そ、
女子、あま、ま、け、紀内侍、何仏
の庭の訓、紀内侍の、ま、ま、ま、
ま、紀伊、ま、ま、の、内、侍、ま、ま、
く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
ま、ま、此、内、侍、ま、ま、の、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

女院、新陽明門院也、女院小傳、新陽
明門院藤位子、龜山妃、深心院、関白女、

律師の、い、む、た、り、ん、こ、し、た

く、たり。それをも、と、ま、ま、
そ、伊、他、お、ま、お、わ、ひ、ま、ま、

六、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
か、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
原、伊、他、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、

菊に... 康富記宝徳三年九月廿九日粟
田口神明有湯立云々

逢坂の関、道路国郡分別記、近江

滋賀郡逢坂山云々、神功紀、武内宿禰
出精兵而追之、遇于逢坂、以破其

処曰逢坂也云々、孝徳紀、近江狭木、渡
合坂山云々、日本紀略、延暦十四年八月己卯

1、廢近江國、相模刻云々、文徳実録九
に、天安元年四月庚寅、始置近江相模大

石龍華等、三處之関云々、相模是古昔
之舊関也云々、逢坂の事、西遊行囊抄

十一、近江名所圖會、一、かど、一、委、一、り、一、
不、法、言、一、み、え、た、る、は、奉、る、に、違、を、

野路、道路国郡分別記、近江粟
太郡野路村云々、平治物語中、野路、

辺ヨリ打後レ冷ヘリ、頭、殿、藤、原、堤
三ノ、若、者、共、ハ、サ、ガ、リ、ヌ、ル、カ、ト、宣、ハ、

云々、吾妻鏡、四、一、著、近、江、國、藤、原、宿、云、次、至、野、路、方、拾、遺、雜、春、長、能、寺、に、在、り、此、寺、

同、を、と、り、て、と、と、あ、れ、れ、の、花、を、と、り、て、名、所、方、角、抄、一、野、路、藤、原、宿、云、東、園、紀、行、

の、筆、方、り、云、西、遊、行、囊、抄、十、一、此、所、昔、ハ、驛、宿、也、云、近、キ、代、ニ、引、野、路、移、草、津、云、此、所、抄、

一、む、り、云、

志の系、和名抄七、一、近江国野路郡藤原、之乃波良云、延喜兵部式、一、近江国驛馬、藤原清水、身卷

横川、各十五疋云、枕草子原、一、一、系、に、志、の、系、を、吾、妻、鏡、四、一、近、江、國、藤、原、宿、云、東、園、紀、行、

野路、之乃波良云、志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

志の系を、吾妻鏡、四、一、近江国藤原宿云、東園紀行、

拾、栗田、あ、つ、ぐ、ち、と、い、ふ、よ、

り、車、ハ、か、つ、つ、何、ど、た、く、電、

坂の関、こゆる、原、金、仙、不、

さ、ざ、め、好、さ、め、り、ハ、あ、れ、様、

かれ、ど、又、あ、ら、坂、と、た、の、め、を、

野路、と、い、ふ、は、大、一、か、つ、い、ち、

さ、死、人、も、み、る、と、日、ハ、く、れ、り、

て、い、物、ハ、好、い、と、あ、り、い、い、時、

さ、う、ら、い、と、い、い、

夫木、難、十、

わ、れ、て、い、い、い、い、い、い、

夫木、抄、一、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

お、い、い、い、い、い、い、

らぬをさつふんひくたり、宇治拾遺十五吾

妻鏡一盛衰記廿七、兼久物語四、大平記十九

菅田集四、景清草子下、藤川記などともみ

ゆ、清按よ、そのまゝに例より水の候よ

日れてぶらう、これ名をさう、

まゝの繩、真碑の繩をさう、

いふ、まゝの繩、真碑の繩をさう、

常盤の言、万七、冬、昔、藤、同九、冬、

昔、藤、都、良、など、冬、冬、冬、冬、冬、冬、

社仲の葉、ほく、小、蔓、生、生、生、生、生、

蔓、甚、長、く、彼、中、小、木、綿、あり、を、こ、と、

さ、冠、辞、考、九、古、事、記、傳、八、が、い、ろ、う、

た、ろ、と、考、べ、夫、本、秋、六、碑、の、次、を、考、べ、

水、停、橋、和、名、宇、岐、波、之、方、事、物、紀、爲、七、春、

秋、後、傳、曰、周、報、王、五、十、八、年、秦、始、作、浮、橋、於、河、

上、按、詩、大、明、云、造、舟、爲、梁、孫、炎、曰、造、舟、比、舟、

爲、梁、也、比、舟、於、水、如、板、於、上、今、浮、橋、也、故、社、

預、云、造、舟、爲、梁、則、浮、橋、之、謂、矣、云、三、才、齒、會、宮、室、

僅、三、才、齒、會、卅、四、人、越、前、福、井、北、有、川、其、幅、九、百、四、十、丈、用、六、十、余、艘、

船、川、亦、不、少、上、野、佐、野、舟、橋、亦、然、矣、云、万、十、四、上、野、の、佐、野、の、舟、橋、

橋、云、上、野、佐、野、舟、橋、亦、然、矣、云、万、十、四、上、野、の、佐、野、の、舟、橋、

橋、云、上、野、佐、野、舟、橋、亦、然、矣、云、万、十、四、上、野、の、佐、野、の、舟、橋、

橋、云、上、野、佐、野、舟、橋、亦、然、矣、云、万、十、四、上、野、の、佐、野、の、舟、橋、

いふくくしてかた方、は、あ、ら、い、

か、あ、ら、い、の、ほ、と、ん、い、あ、ら、い、

く、目、づ、み、よ、と、と、と、と、と、と、と、と、

夫、本、雜、三、り、の、世、の、口、と、と、と、と、と、と、

し、や、あ、と、う、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

一、の、ま、な、を、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

大御草子よよけりてありけり... 本朝の正書よ過の字とヨキル... 十四... 武藏高飾郡...

熱田の宮、和名抄云尾張國愛智郡厚田... 市村即熱田祝部... 以神劍為主... 百十七名別當妙法院神主大宮司田嶋云... 吾陽市八年... 考り、参考太平記...

鳴海傳、和名抄云尾張國愛智郡成海... 行書抄云昔ノ鳴海ノ驛ハ此所ヨリ左ノ方ノ山下ニ...

我者の上よまゝ... 依ふの字と... 意にもより... 字鏡女部... みるたつて、海松菜...

夫木雜七... 写林やあし... 鳴海の写を... 千石の... 千石を... 鳴子も...

